

補助事業番号 19-8

補助事業名 平成19年度 科学技術振興に関する開発研究等補助事業

補助事業者名 財団法人 日本科学技術振興財団

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

我が国の先端的科学技術水準の向上と実用化を目指した広範な普及を図るとともに科学技術振興に係わる循環型社会への環境を整備するため、各種の調査研究及び科学館学習支援システムの研究開発を行い、もって機械工業の振興に寄与する。

(2) 実施内容 <http://www2.jsf.or.jp/ja/about/disclosure/aid.html>

ア. 博物館における環境技術リテラシーの手法に関する調査・研究

企業博物館を中心に国内の博物館における3R技術をテーマとした展示やワークショップなどの事例についてアンケート調査を行い、現状と課題を把握します。また、海外の博物館や展示会などを訪問・視察し、最新の3R技術関連の展示やワークショップなどの事例調査を行うとともに最新の動向を把握します。そして、これらの調査結果も踏まえ、科学技術館において3R技術に関する展示やワークショップを考案し、来館者を対象にして試行試験を行います。

イ. ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究開発

メガネや時計、あるいは洋服のように、手に持たずに身に付けることができるウェアラブル(Wearable)機器を利用した、ハンズフリーという特性を活かした科学館学習支援システムを試作し、その有効性に関する研究を行います。

2. 予想される事業実施効果

ア. 博物館における環境技術リテラシーの手法に関する調査・研究

本事業の成果は、今後博物館において環境技術の展示または教育プログラムを開発・実施する上で、本事業の成果は、今後博物館において環境技術の展示または教育プログラムを開発・実施する上で参考データとなりうるものと考えます。

また、本事業で製作された教育プログラムの評価システムは、シンプルなシステムであるため汎用性が高く、環境技術に限らず様々なテーマで利用することができ、さらに来館者の意識を測ることもできるので、博物館におけるマーケティング調査のシステムとしての発展も期待できます。

イ. ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究開発

ウェアラブル機器の小ささが利点でもあり欠点でもあることが分かったが、「手に持つ」ではなく、「身に付ける」というハンズフリーという特徴を活かした使い勝手の

良いウェアラブル機器（あるいはウェアラブル着）などこの分野の発展が期待されま
す。今回は科学館学習支援システムとして機能の面に重点をおいて実施したが、記憶
や体験などをサポートする学習支援としての位置付けをもつ手軽なウェアラブルなシ
ステムとしての発展も考えられます。

また、長期的には科学館学習支援システムを導入することで、科学館における科学
技術の学習支援を行うことが可能となり、科学技術に更なる関心を寄せ、興味を持つ
人が増えることが期待できます。

3. 本事業により作成した印刷物等

ア. 博物館における環境技術リテラシーの手法に関する調査・研究

「博物館における環境技術リテラシーの手法に関する調査・研究～3R技術編～」報
告書

イ. ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究開発

「ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究開発」報告書

4. 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 財団法人 日本科学技術振興財団

(ニホンカガクギジュツシンコウザイダン)

住 所： 102-0091

東京都千代田区北の丸公園2番1号

代 表 者： 会長 有馬 朗人(アリマ アキト)

担当部署： 総務部 総務課(ソウムブ ソウムカ)

担当者名： 課長 戸塚 功(トツカ イサオ)

副主任 宮野 克浩(ミヤノ カツヒロ)

電 話： 03-3212-8484

F A X： 03-3216-1306

E-mail： niimoto@jsf.or.jp

U R L： <http://www2.jsf.or.jp>